

令和3年度 国立中央青少年交流の家教育事業

教員免許状更新講習

【必修】教育の最新事情

令和3年12月4日(土)

【選択必修】学校における危機管理上の課題と対応

令和3年12月5日(日)

○目的

小中高等学校、特別支援学校及び幼稚園の教員を対象に、免許状更新にかかる必修領域及び選択必修領域の講習会を、静岡大学及び御殿場市教育委員会と連携し実施することにより、喫緊の教育課題についての理解を図る。



○受講者

幼・小・中・高・特別支援学校教諭・その他

2日間のべ60名(必修29名、選択必修31名受講)

○事業の内容

【必修①】「子ども観、教育観等についての省察」「教育的愛情、倫理観、遵法精神その他教員に対する社会的要請の強い事柄」「居場所づくりを意識した集団形成」「国の教育政策」「世界の教育の動向」及び試験

講師：静岡大学 教職センター准教授 松尾 由希子 氏

「性の多様性」に焦点をあてた講義・実習を行った。

前半では、ワークシートで受講者の「性の多様性」に関する知識について振り返り、グループで話し合うことで「性的マイノリティ」に関する現状と課題について理解を深めた。

後半は、講師の実体験も交えながら、性的マイノリティの児童生徒が抱える心身の困難さを知り、そうした悩みを抱える児童生徒に対する教員としての支援や対応に関することを学んだ。

これからの時代に必要とされる、学校現場での性の多様性に関する知識と対応について、参加した受講者にとっても、正しい視点や知識を身に付け、対応について学ぶ良い機会となった。



【必修②】「子どもの発達に関する、脳科学、心理学等の最新知見に基づく内容」「特別支援教育に関する新たな課題(LD, ADHD等)」「カウンセリングマインドの必要性」及び試験

講師：静岡大学 非常勤講師 加藤 陽子 氏

子どもの発達や、特別支援教育に焦点をあてた講義・実習を行った。

前半では、様々なカウンセリングスキルや、脳科学や心理学の視点から考える子どもの発達に

ついて理解を深めた。カウンセリングスキルについて、実際にカウンセラーとして対応した際のこと踏まえての講義で、児童生徒のみならず保護者への対応にも活かせる内容であった。

後半は、特別支援教育を中心に、発達障害を抱える児童生徒の現状や課題を理解し、どのように対応し支援していくべきかを学んだ。また、ワークを通して、発達障害を抱える児童生徒がどのように物事をとらえているかを受講者自身が体感する場を設け、発達障害についての理解を深めた。



【選択必修】「学校における危機管理上の課題と対応」「教育相談」及び試験

講師：静岡大学 教職センター講師 金子 泰之 氏

「教育相談」に焦点をあてた講義・実習を行った。

前半では、自己理解、他者理解について学んだ。ワークシートを用いながらグループワークを行い、子ども理解につなげた。

後半は、学校における危機管理上の課題として「いじめ」を取り上げ、その構造やプロセスについて、ワークシート等を活用して理解を深めた。

この講義を通して、受講者が日頃行っている保護者対応や子どもとの関わりを、振り返る良い機会となった。



《受講者の感想から》

- 今後、特に大切になる「性の多様性」に関して、学ぶ良い機会となりました。LGBTQについての理解が深まりました。
- 学校における「性の多様性」に関する知識が深まりました。自分も授業等での言動に十分配慮しなければと身が引きしまりました。
- カウンセリングスキルについて、具体的なしぐさなども教えていただき、今後の生徒との面談等で活かすことのできる内容が多い講義でした。
- 生徒が感じている不安を理解ができたように感じます。「できない」ではなく、具体的にどこに不安を感じているか理解し、生徒や保護者に寄り添うように支援していきたいです。
- 教育相談、いじめ問題、子どもとの関わり方など、すべてわかりやすく、明日からの指導につながるものばかりでした。
- 生徒や保護者と話す際に、自分がどのように振る舞っているのかを改めて考え直すことができました。

《成果と今後の課題》

今の社会情勢に即した、教育現場に必要な講義内容であったので、講習会に対する満足度が大変高かった。また、グループワークを通して受講者同士が意見交換できたことも好評であった。

学校教育に期待されていることや、それに対する課題も多様化してきている。今後も、教員免許状更新講習を行う際には、受講者のニーズに応える講習会になるように、静岡大学や御殿場市教育委員会ともさらに連携を図りながら、模索していきたい。